



マフテックグループ



写真=大槻 純一

松崎 耕介氏

マフテックグループ
代表取締役社長 CEO

松崎 耕介（まつざき こうすけ）氏：1984年京都大学工学部卒、日本アイ・ビー・エム入社。2015年シュナイダーエレクトリック（日本法人）代表取締役、20年フジニール代表取締役社長、23年同社取締役会長を経て、24年2月マフテックグループ取締役に就任。同年4月より現職

自動車の環境対策に強み

自動車などに欠かせない断熱性能に優れた遮熱材のメーカーとして、世界で高いシェアを持つ。大型蓄電池向けの遮熱材など新市場での需要開拓を進め、持続可能な社会の構築に貢献する。

——事業面の変化を教えてください。

松崎 当社は、三菱ケミカルのアルミナ繊維事業が米国の投資ファンドであるアポロ・グローバル・マネジメントに譲渡され、2022年にマフテックグループとして独立しました。私自身は24年4月に社長CEOに就任し、この1年は組織体制の整備に奔走してきました。

当社製品「MAFTEC」は、1600

℃の熱に耐え、1300℃でも弾力性を保つといった特徴を持つ結晶質アルミナ繊維です。自動車の排ガスを浄化する触媒コンバーターのクッション材に使われ、世界的に高いシェアを持っています。製鉄所などの炉内遮熱材などにも使われ、燃焼効率を高めることでCO₂削減に大きく貢献しています。

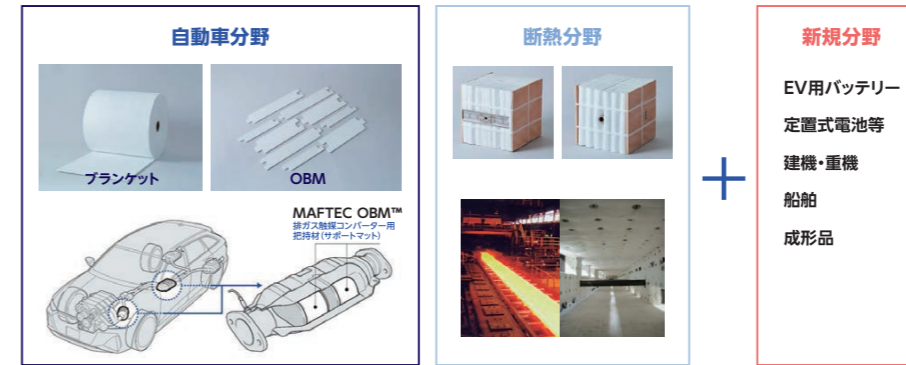
——自動車市場はグローバルで大きく

変化しています。

松崎 現在は事業の9割近くが自動車関連です。主にエンジン車向けで、当社の売り上げは自動車の販売台数の影響を強く受けます。日本車には当社製品が非常に多く採用されており、グローバルでも6~7割のシェアを持ちます。

これに加えて今後は、電気自動車（EV）向けの市場拡大に期待してい

■ マフテックグループの主な事業と製品



現在の主軸のエンジン車向けに加え、新規分野の開拓を進める



新規需要開拓に向け、2次電池の製造・開発に関する展示会「BATTERY JAPAN」に出展した
出所：マフテックグループ

ます。車体底部に搭載した蓄電池が発火した際に、車内空間を保護するための遮炎材の需要です。

ただ、一気にEV向けにシフトしていくことは考えていません。ここ数年、EV市場が急拡大しましたが、欧米ではEVの販売台数の伸びが鈍化しており、これまでと同じような成長が続くとは見ていません。今後3~5年は、エンジンとモーターの2つの動力源を搭載したプラグインハイブリッド車（PHEV）などハイブリッド車が主流になると予想しています。

特にトラックなどの大型車両はEVへの移行が難しく、新興国では従来型のエンジン車の需要が続くため、10年程度は成長市場と見ています。また、EVの普及速度には不確実な点が多いため、他分野への展開も進めているところです。

大型蓄電池の遮熱材に

——自動車以外では、どのような市場への展開を考えていますか。

松崎 足元では、半導体製造や太陽光パネル製造など、高温の製造プロセスでの利用が拡大しています。

新市場では、電力系統用の定置式大型蓄電池の需要が増加しています。太陽光発電や風力発電の電力を貯蔵する蓄電池の安全性を高める用途に使われます。大型蓄電池は複数の蓄電池で構成され、1つが発火すると他に延焼するリスクがあるため、安全対策は極めて重要です。蓄電池メーカーはコスト削減と安全性確保の両立を求めているため、当社製品ならその要望に応えられます。

遮熱材については、ほかにも産業用ロボットやプラントなど、幅広い分野で潜在的な需要があると考えています。

——新しい市場開拓への意識も強まっているようです。

松崎 本社部門は3分の2以上が新しいメンバーです。こうして既存の概念にとらわれない新しい発想を取り入れることで組織文化が大きく変化し、結果として新規開発への意欲が高まっています。

トラックやバスなどのエンジンを開発するメーカーや関連企業に対し、積極的な提案を行なっています。日本の自動車関連企業は新興国市場でも強みを持ち、そのネットワーク

を通じて間接的にグローバル展開を進めます。

——事業を進める上で、どのようなリスクを想定していますか。

松崎 主な事業リスクはアルミナやシリカといった原材料の一部の価格が変動的であることです。こうしたコストを安定化させるために、調達先や調達手段の多様化、調達時期の調整など、様々な対応策を講じています。

欧州への船便など輸送費が高騰していることもリスクの1つです。当社製品は自動車製造に欠かせない部品なので、コスト対策を進めて安定した供給体制を構築します。

——どのような企業を目指しますか。

松崎 新体制になり、若手社員を中心に当社へのミッションやビジョン、バリューを検討しました。ビジョンとして「世界のあらゆる“熱”をシェアに変える」ことを掲げました。「あらゆる熱」という言葉は、物理的な熱だけではなく事業を推進する社員やお客様の情熱の意味も含んでいます。これらの様々な熱も幸せに変えて、持続可能な社会の構築に貢献していきます。